



東北支部年報

第 26 号

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉 1-5-15 日本生命仙台勾当台南ビル4F

TEL 022-265-3404

FAX 022-265-3405

E-mail: aij-tohoku@nth.biglobe.ne.jp<http://news-sv.aij.or.jp/tohoku/index.htm>

巻頭言

— 日本建築学会創立 120 周年と支部活動 —

東北支部長

近江 隆

今年は学会の創立 120 周年のお祝いということで 4 月 7 日に東京の建築会館において式典が挙行された。大変めでたいことである。式典では記念講演や功労者表彰が行われ、各支部でも記念事業の一環としての事業が取り組まれることになっている。120 年という人間に置き換えれば 2 回分の還暦を繰り返したことになる。

翻って、我が建築界は明治以来今日まで大変な進歩をとげてきた反面、残念ながらそこに誇るべき都市の姿をつくりえたかについては疑問である。建築技術は進歩したが、建築の社会は旧態依然とした状態がつづき、これが今日の耐震偽装問題、談合問題、欠陥住宅問題、景観問題等の基礎をつくりだしている。学会はこれらの問題によって人々がもつ建築不信に対して、「社会とともに」をスローガンに掲げて社会の信頼獲得への学会の姿勢を示そうとしている。確かに社会の信頼を得ることは必要だが、そこに一抹の危惧を感じるのは私だけだろうか。この「社会」を「国家」に変えると戦前の人々を動員した計画への参加と同じ過ちを繰り返すことにつながる危険がありはしないだろうか。社会の計画や事業が常に失敗を重ねてきた歴史をみれば、それに「ノー」と言える立場を失うリスクを学会は考えるべきではないか。

国が進めるマンション建替えの推進等、いくつかの取り組みにおいて小さな学協会が組織動員されている。建

築学会は大きな組織なのでこのような事業推進組織には参加していない。しかし、まちづくりや住宅のような広く事業に関わる複雑な課題（社会要請）に直接応えようとすれば、多くの会員が学会と現実の所属企業等との間で板ばさみとなり、他方で学会は社会に対して自己の権威を示すという予期しない結果を招くであろう。また、地方では人材が少ない故に、現実の事業に関係している他の学協会との協調無しには目的に応えられないであろう。そして地方の組織や会員は、中央の各学協会が打ち出す社会貢献の末端の奉仕者として何重もの役割を背負うことになる。

今年、JIA 東北支部、宮城県建築士会との協議の場で、各学協会支部の連携を深め、「東北建築賞」等の表彰制度を対象に共通の課題に共同で取り組むことが話し合われたばかりである。社会の状況変化に地方支部が適応するための組織及び活動の再構築は不可欠である。学会内部の問題としては、残念ながら研究委員会の再構築問題には今回踏み込めなかった。研究部会を作った当時とは異なる状況があり、将来の道州制に対応する人材の確保や研究の高度化に対応できる仕組みづくりに早急に取り組む必要がある。

もくじ

○ 巻頭言

-日本建築学会創立 120 周年と支部活動- 1

○ 企画記事 2

○ 05 建築文化週間事業 2

○ 05 親と子の建築講座 4

○ 第 26 回 東北建築賞(作品賞)選考報告 5

○ 第 26 回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告 7

○ 第 16 回東北建築作品発表会の報告 7

○ 第 25 回東北建築賞表彰式及び展示会報告 7

○ 「作品選集 2006」東北支部審査報告 8

○ 2005 年度設計競技東北支部審査報告 8

○ 2005 年度東北支部研究報告 8

○ 2005 年度日本建築学会東北支部総会議事録 9

○ 研究部会活動報告 10

○ 支所だより 13

○ 常議員会から 15

○ 支部役員名簿 16

○ 2005 年度事業報告 17

○ 2006 年度事業計画(案) 19

○ 法人・賛助会員 21

「みちのくの風 2005 山形」開催報告

常議員（総務企画担当） 船木 尚己

支部研究発表会を、学術・技術・芸術を包括した場へと発展させ、学会以外の団体組織と協賛しながら学会の活動を一般市民に還元していくことを主なねらいとした「みちのくの風」も4回目となり、2005年度は6月11日、12日の2日間、山形県郷土館「文翔館」を会場に開催された。

研究活動として第68回東北支部研究報告会が開催され、環境系38題、計画系49題、構造系57題の計144題について発表と討論がなされた。発表論文は、日本建築学会東北支部研究報告集第68号（2冊分）として刊行した。また、今年度からの新たな企画として、各分野において最先端の研究活動を行っている研究者による招待講演が行われた。今年度は、構造材料部門と計画環境部門にわかれ、それぞれ筑波大学助教授・境有紀氏、宮城大学専任講師・本江正茂氏による講演が行われた。報告会を含め、およそ180名程度の参加があり、各会場ともに活発な討論が行われた。

市民との交流活動に関しては、「景観・エネルギーとまちづくり」というテーマでパネルディスカッションが行われた。パネリストは、東京大学教授・篠原修氏、東京芸術大学教授・北川原温氏、慶應義塾大学教授・金谷年展氏で、それぞれの立場から事例を通して講演された。その後、コーディネーターの東北芸術工科大学教授・相羽康郎氏が質疑討論・まとめを行った。参加者は70名程度であった。

パネルディスカッションに引き続き、第25回東北建築賞表彰式が行われた。今年度は作品賞が6点、作品奨励賞が2点選出された。参加者は50名程度であった。また、みちのくの風2006山形が開催された2日間、各作品のパネルが同会場の一室に展示された。

初日の18時頃から会場を産業ビルに移し、懇親会を開催した。支部研究発表者、東北建築賞受賞者、地元関係団体、支所・支部関係者ら50名の参加を得て、親交を深めた。

おわりに、「みちのくの風2006山形」の開催にあたりご尽力を頂いた山形県並びに山形支所、(社)日本建築家協会東北支部、(社)山形県建築士会、(社)山形県建築士事務所協会、東北芸術工科大学の関係各位に謝意を表す。

「やまがたレトロ館めぐり」

山形支所事務局 佐藤 宏行

平成17年10月2日（日）山形市内において2005年度建築文化週間事業「やまがたレトロ館めぐり」を開催しました。本企画は、山形県内に数多く残る歴史的な建築物を親子で歩いて見学し、建築文化に興味を持ってもらうことを目的として開催しており、4回目を迎えた今回は、前年に引き続き山形市内を会場として開催しました。

山形市内には、普段何気なく通っている街中に歴史的建築物が数多く残っています。今回は文翔館をスタートし旧済生館まで、周辺のレトロ館と合わせて7つの建築物を巡るルートをコースとして設定し、講師として「山形歴史たてももの研究会」の方々に協力していただき、時代背景や建築様式など詳しい説明を交えながら見学しました。

文翔館は大正5年から昭和50年までの間、山形県の県庁舎と県会議事堂として使用されていた建築物で、現在は国の重要文化財に指定され、県郷土館として公開されています。来館者に常時案内サービスを提供しておられるガイドボランティアの方にも協力していただきながら館内を見学しました。天井に施された繊細な左官装飾や、精巧に復元された床材には、参加した子供たちだけでなく大人の参加者の方々にも建築の奥深さを実感してもらえたようでした。

最後に見学した旧済生館は県立病院（後に市営）として利用されていた建築物で、現在は国の重要文化財に指定され、山形市郷土館として公開されています。擬洋風の建築様式に「美しい建物だ」という感想をもたれた方もいました。

当日はあいにくの雨であったにもかかわらず、参加者の皆様からは「改めて山形の建物・風景のよさを発見できた」などの声を多くいただき、子供達にとっては建物の細部を見るという機会となり、大人の参加者にとっても歴史的建築物の保存・活用に対する意識を持つ良いきっかけとなる講座を開催できたと感じています。また当日の見学状況がTV放映され、山形市内のレトロ館についての情報発信の一助となったのではないかと考えております。

2005年度親と子の建築講座開催報告（山形会場）



「建築を知る環境講座」を終えて

福島支所 村上 金彦

福島支所では、2005年の建築文化週間事業として、「建築を知る環境講座」を郡山市ビッグアイで10月29日（土）に開催いたしました。当支所において6回目を数える講座ですが、100名の参加をいただき、盛況のもとに実施することができました。

今回のコンセプトは、建築とそれを取り巻く都市との関係を考え、より深く建築を知るひとつの手掛かりとしてもらおうというもので、この実現にあたっては、建築家の原広司、佐瀬守昭両氏のご協力をいただきました。

まず、原 広司氏には、「ディスクリート・シティの理論と実践」と題する講演をいただきました。世界各地の集落に見受けられる自立し、可能な限り自由なグループの形成例を取り上げながら、建築、都市、空間、情報が有機的につながっている“ディスクリートな社会”について、概念の出発点となった自邸を始め、宮城県図書館、札幌ドームなどを紹介いただき、また、「個でありながら、集団を積極的に構成し得る空間」の実現例として会津学鳳高校・中学校の設計内容にもふれながら、お話しいただきました。建築が都市空間の中で果たす役割や自身の豊富な経験に基づく経験談など、様々な立場の参加者それぞれにとって大いに参考になったものと考えております。

また、佐瀬守昭氏には、「街なか居住と中心市街地活性化」と題し、都市や近郊の農村部において今後どのようにまちづくりをしていくべきなのかということに関してプレゼンテーションをしていただきました。これまでの郊外へスプロールするように向けられてきたベクトルを中心市街地に向け直すことが重要であるが、本県の場合は近郊農村部が中心市街地とさほど離れていないため、都市と農村部の共存性をもった都市づくりが必要であり、今後は交流と定住の両面から考えていく必要があることや、それぞれの地域特性に応じたコンパクトなまちづくりが重要であることを、諸外国の事例紹介も交えながら解説いただきました。建築に携わる者として、まちづくりにも配慮しながら今後どのように関わりあっていけばよいか、それぞれの参加者にとって参考になったことと思います。

講演後の会場フリートークの時間には、両講師から、これから建築に携わろうという若い力に「利用者とともにつくる建築の重要性」を伝えていただきました。今後、彼らの記憶の断片に留まり、建築を考えるうえでプラスの影響力を持ってくれることを願っています。

最後に、福島支所では、事業のさらなる充実と継続的な展開を図っていきたいと考えておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。



福島支所「建築を知る環境講座」風景

’ 05 親と子の建築講座

“魅力ある街づくり”を考えよう(茂森町編)

青森県立弘前工業高等学校 古跡 昭彦

平成17年8月20日(土)に、青森県立弘前工業高等学校CAD実習室にて、参加者27名が集い実施された。

門前町として栄えた“茂森”という街の歴史的な背景を解説し、その茂森で、今何が起きているかを説明した。そして、その状況を把握するために、カメラを持って通りを観察して歩き、現状を記録し認識してもらった。また、それと同時に、歴史を感じさせる建物や、老舗の店舗などの大切にしたいものも記録してもらった。

そして、その記録をもとに、その通りの現状を報告し合い、この通りを、自分たちでも興味を持って歩きたくなるような、また、この通りに面したところに生活したくなるような、そんな魅力のある通りにするには、どのようなことを考えればよいかを、参加者全員で考えてもらい、そこで出た様々な提案を1つのレポートとしてまとめた。そして、日を改め、その提案を具体的に表現するため、弘前工業高等学校建築科の生徒が、模型を製作して、“茂森通り修景計画案”という報告書にして、参加者に配付し、この講座を完結させる予定である。小学生にとっては、やや難しい内容であったと思われるが、親と協力してそれぞれレポートをまとめ上げていた。今回は、茂森町という共通の場所で考えたが、今度は、参加者たちの住むそれぞれの街に関して、この手法を使って、住み良い街づくりにするにはどのようにしたらよいかを、考えてもらうことを約束して、講座を終了した。

コンピューターによる住宅モデル作成

山形県立産業技術短期大学校 江川 嘉幸

平成17年10月23日に、山形県立産業技術短期大学校において、親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催しました。講座の内容は、昨年と同様で建築3次元CAD GRAPHISOFTを使用して自由な形状の住宅モデルを入力してもらい、ウォークスルーアニメーションの作成までを体験してもらうというものです。

今回は、昨年を上回る8組16名の参加者となりました。中には、以前上の子が参加して面白かったので今回は下の子を連れて参加したというリピーターもおられました。

講座では、はじめにCADの用途や作品例を紹介し、その後配布資料書に沿って大型スクリーンに操作を実演し、親子が各自のCADを操作するという手法で進めました。

以前とは異なり、親子共々日頃からコンピューターに慣れ親しんでいる様子で、学生アシスタントが不要なほど直

感的に操作を進めているようでした。参加者にはそれぞれ自由なイメージを入力してもらい、小住宅ながら個性豊かな作品が出来上がりました。作品は、内・外観パース(JPEG)とアニメーション(AVI)をCD-ROMに保存して配布しました。

本講座を通じ、親子でコンピューター活用という側面から、建築の楽しさを感じ、興味を持ってもらう良い機会になったのではないかと思います。



原町まちたんけん

—歴史と文化を生かしたまちづくりを考えよう—

建築と子供たちネットワーク仙台 渋谷 セツコ

開催日：平成17年7月27日(水)

開催地：仙台市宮城野区原町

見学場所：原町コミュニティ・センター、原町本通り、宮城野区役所

仙台市における旧市街地の東側に位置する原町は、古くから塩竈街道沿いに細長い町場を形成し、藩政期には城下東方では最初の宿場として、明治以降は宮城郡役所が置かれ、鉄道の駅ができたこと、賑わうようになり人通りの絶えないところであり、若き日の幸田露伴も原町を歩いたと言われている。また戦災を免れたもこもあり、現在でも明治期から昭和初期までの店屋も数件健在である。近年はカラーブロックによるコミュニティ道路の整備や高層マンションが建ち始めるなど街並みが変わりつつある。

このような状況の中で、地域のまちづくりや将来のまちの担い手である子供たちへの教育のきっかけづくりとして、将来のまちづくりや人々とまちとの係わりなどに関心を抱いてもらうためにまちを探検することを目的に行うもので

ある。

公募した小学生と社会人の合計 40 名が一緒になって、「まちの宝物」、「気になるもの」をさがすために、あらかじめ準備したガイドマップにしたがい、インスタントカメラを用いながら、地元の方々にインタビューをしたり、まちの資源を探したり、グループでまちを探検する。

探検終了後、各自報告書をまとめ、グループごとに発表しあって、体験を共有する。

第 26 回 東北建築賞(作品賞)選考報告

選考委員長 武澤 秀一

1. 応募作品数

- ・小規模建築物部門： 4 点
- ・一般建築物部門： 29 点
- 合計： 33 点

2. 選考経過

(1) 事前打合せ会議 (2005 年 9 月 15 日、於；日本建築学会東北支部会議室)

応募作品の数とその内訳を確認した上、東北建築作品発表会の運営方法および東北建築賞〔作品賞〕の選考基準などについて事前打合せ会議を行った。

(2) 東北建築作品発表会 (2005 年 10 月 1 日、於；仙台メディアテーク 7 階スタジオシアター)

第 1 次審査 (同日、於；仙台メディアテーク 7 階会議室 b)

第 16 回東北建築作品発表会において応募全 33 作品の発表が行われた。そのうち 1 点については代理者による発表となったが、発表会は全体として滞りなく終了した。時間厳守の下、熱のこもった効果的なプレゼンテーションをされた発表者諸氏に敬意を表したい。

東北建築作品発表会の終了後、会場を移し、現地審査を行う必要のある作品を発表作品のなかから選定することを目的として、第 1 次審査に入った。

あらためて選考基準などを確認した後、東北建築作品発表会における発表を基に、現地審査を行う必要のある作品の選定に向け投票を行った。

その結果、小規模建築物部門では 3 作品が選定された。一般建築物部門では 10 作品が選定された。以上の計 13 作品を現地審査の対象とすることが全会一致で承認された。

なお、現地審査は 1 作品につき 2 名以上の選考委員がこれに当たることを確認し、選定された 13 作品について現地審査の分担を決めた。

また現地審査の対象となった作品のそれぞれにつき、現地において確認すべき点を検討し、全選考委員の間で確認した。

(3) 現地審査

第 1 次審査において選定された 13 作品の現地審査は 12 月中に完了すべく鋭意、実施された。

(4) 第 2 次審査 (2006 年 1 月 28 日、於；日本建築学会東北

支部会議室)

第 2 次審査に当たり、あらためて選考基準などを確認した。次いで、現地審査に当たった各選考委員から報告がなされた。これに対して他の選考委員から質問がなされ、活発な応答が行われた。これらを通し、各作品についてさまざまな見地から多面的な審査が行われた。

これを経て、一般建築物部門においては、投票により東北建築賞〔作品賞〕該当作 2 点が決定した。小規模建築物部門においては、残念ながら今回は入賞該当作なしとの結論に至った。

また、一般建築物部門から 1 点を東北建築賞〔作品奨励賞〕該当作に選定した。

3. 選考結果

作品賞 鶴岡アートフォーラム

【所在地】山形県鶴岡市馬場町

【設計監理】小沢明建築研究室

【施主】鶴岡市

【施工】佐工・山口・鈴木建設共同企業体ほか

作品賞 道の駅「上品の郷」

【所在地】宮城県石巻市小船越

【設計監理】関・空間設計

【施主】河北町 (現・石巻市) ほか

【施工】日本国土開発ほか

作品奨励賞 秋田拠点センター アルヴェ

【所在地】秋田県秋田市中通

【設計監理】日建設計

【施主】秋田市、秋田新都心ビルほか

【施工】大成建設・日商岩井共同企業体

4. 講評

今回の応募作品数は総計 33 と昨年をやや下回った。特に小規模建築物部門への応募が 4 点と少なく、また入選作をみることができなかった。この点、小規模建築物部門への応募を喚起する何らかの方策が要請されるといえよう。

しかし東北地方の建築界が今回、特に低調だったというわけではないであろう。前回の応募数が前々回の 2 倍近い活況を呈したことの反動かと思われる。事実、今回の応募作品はどれも一定の水準を超えた力作ぞろいであった。積極的に応募された各位に、あらためて敬意を表する。

選考に当たっては、東北建築賞〔作品賞〕の趣旨をあらためて確認しつつ作業を進めた。作品賞である以上、スキルの水準は当然求められる。一方、東北地方の地域性に立脚するという東北建築賞〔作品賞〕の性格からして、作品選考においてこれを軽視することは本賞の存在意義にもかかわることであり、許されないであろう。当然のことながら選考は申吟を要する苦しいものとなった。選考委員会においては、以上にとどまらない多くの点を総合的に考慮した上で最終的な選考結果を得たのであった。

現地審査をはさんだ 2 度の選考過程を経て結論に至ったが、惜しくも受賞を逸した作品にも特筆すべき内容を備え

たものがあつた。次回以降も、さらに多くの方々が応募されることを心から期待する。

以下に入選作品について個別に講評を記す。これは現地審査に当たった選考委員が起こしたものを参考に、選考委員長が纏めたものである。

【作品賞】

◇ 鶴岡アートフォーラム

本作品において水準の高い安定した設計スキルが駆使されていることは多くの選考委員が一致するところであつた。内外の空間の造形は巧みであり、またその密度も高い。この建築自体が優れたアートというべきであり、外周のほとんどがガラスで囲まれた幾何学立体は極めて現代的なシーンを創出している。アートを楽しみ、創造し、発表する場を市民に提供することに成功しているといえるだろう。

ただ寒冷地における建築としてガラスの用いられ方に疑問も呈された。また西面の冷房負荷についても懸念が残つた。しかし一方で、ここにおけるガラスの使用法は周囲にひろがる歴史的環境を阻害することなく佇む景観上の効果、そして周囲と内部を視覚的に繋げる効果に大なるものがあり、この点において高い評価を得た。

また搬入経路と一般の動線が交錯する面もみられたが、使用実態から見て全体評価を下げるものではないと判断された。

以上を総合し、本作品は東北建築賞〔作品賞〕に十分に値するものと評価された。

【作品賞】

◇道の駅「上品の郷」

道の駅には車からの視認性の良さとともに、地域色を伝える施設でもあることが要請されよう。地域の風景にどのように参加してゆくかが重要なテーマのひとつとなるが、本作品の設計者は、ことさら地域色を表現しようと無理に造形を捻り出すのではなく、きわめて誠実に課題に取り組んでいる。

機能性・快適性の追求、建築構法の合理的選択、抽象的でシンプルな形態、といった現代建築の方法によりながら、上品さを背景とする周辺環境に十分配慮した魅力的で特徴ある地域景観を生み出している。また地場のスギ材を使用し、地元の技術で大きな空間を構成するなど、地域に立脚するその姿勢は高く評価される。

スギ材による格子構造と雲状の幕屋根との間のガラスの扱いなどにやや未消化の部分が見られるが、全体評価を下げるものではないと判断された。

以上を総合し、本作品は東北建築賞〔作品賞〕に十分に値するものと評価された。

【作品奨励賞】

◇秋田拠点センター アルヴェ

多雪地域にある地方都市の駅前に賑わいをもたらすべく建設された巨大な複合施設である。評価されたのはその中

心となっているアトリウム空間である。多様なレベル構成をもつアトリウムは、そのユニークな架構体ともあいまって魅力ある立体的な大空間を創り出

している。それはこの施設に配された多様な空間を繋ぎかつ隔離する役割を果たすとともに、寒冷地での冬期における快適な空間を市民に提供している点が評価された。

またその構成は構造的な課題、特に施工面での困難を克服した成果でもあり、この点も特記される。

ただ板状の高層棟部分が周囲に比べて巨大なあまり街を二分してしまつてはいないか、また、一点集中的にこのような巨大ビルが建つことが本当に街の発展に繋がるのか、疑念が示された。

以上を総合し、本作品は東北建築賞〔作品奨励賞〕に値するものと評価された。

第26回東北建築賞〔作品賞〕選考委員会

委員長	武澤 秀一	東北文化学園大学環境計画工学科
委員	小林 淳	秋田県立大学建築環境システム科
	最知 正芳	東北工業大学建築学科
	田代 侃	東北工業大学建築学科
	本江 正茂	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
	千葉 政継	宮城大学事業構想学部デザイン情報学科
	西野 敏信	東北工業大学建築学科
	本間 義規	岩手県立大学盛岡短期大学部 生活科学科
	前田 卓	(有)アトリエアーク一級建築士事務所
	高橋 敏	岩手県建築設計事務所協会
	宮腰 直幸	八戸工業大学建築学科



〈作品賞〉鶴岡アートフォーラム



〈作品賞〉 上郷の里



〈作品奨励賞〉 秋田県拠点センター・アルヴェ

第26回東北建築賞(研究奨励賞)選考報告

選考委員長 月舘 敏栄

東北建築賞の研究奨励賞部門に久しぶりに1件の応募があり、去る2月2日に選考委員会を7人の選考委員と3人の委任状のもとで開催した。

応募論文は東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻博士課程後期に在学する西村公宏氏の「明治40年代における東京帝国大学臨時建築掛の組織について」(2003年6月発表)他2編である。本論文は、わが国の大学付属公開施設における最初期の施設である東京帝国大学理科大学付属臨海実験所の設計組織についての論文であり、他の2編も京都帝国大学理学部瀬戸臨海研究所水槽室の公開と東京文理科大学付属臨海実験所水族館の公開を論じたものである。社会や地域に開かれた学会・開かれた大学が求められ

ている今日の魁となる大学施設とその建築に関わる組織の実像を明らかにした一連の研究は、高く評価できるとして推薦された成果である。

応募論文の研究成果について歴史意匠部会代表委員から補足説明を受けた後、研究奨励賞に値するか審査を行った。委任状も踏まえた主な意見は、開かれた大学の先駆的施設・建築組織のあり方を明らかにした研究成果として高く評価する一方で、東北地方との関わり、研究奨励賞対象者としての条件が課題として指摘された。前者の東北地方との関わりでは、論文の中で青森県青森市浅虫にある東北帝国大学理学部附属臨海実験所水族館を論じていることで了承した。後者の研究奨励賞対象者としての適正に関しては、「東北建築賞」候補募集要項・研究奨励賞選考方法内規と照らし合わせて議論したが、支部常議員会議に一任することとした。その理由は、応募者が40代半ばの社会人ドクターであるために「若手研究者および大学院生」、研究発表時に40歳未満の規定にそぐわないとの危惧である。

応募論文の研究成果は研究奨励賞として妥当と評価したが、生涯学習時代に相応しい応募規程に見直す時期にきている意見を添付することとした。

第16回東北建築作品発表会報告

常議員 (社会・文化) 宮腰 直幸

第16回東北建築作品発表会は10月1日にせんだいメディアテークの7階のスタジオシアターにて行われた。発表作品は東北各地より小規模部門4作品、一般建築部門29作品の合計33作品の発表が行われた。このうち1点の作品について、設計者による発表が行えないという連絡が事前にあり、代理による発表となった。発表会は支部長挨拶、武澤選考委員長による発表にあたっての注意の後、設計を担当した各応募者の説明、質疑応答により進行した。

この作品発表会は第26回東北建築賞の一次審査を兼ねており、発表のプレゼンテーションも審査の対象とするため各審査員からは活発な質問がなされ、熱心な議論が交わされた。会場では審査員以外にも一般の参加者や大学生などが発表に聞き入っていた。

本会開催にあたっては、(社)日本建築家協会東北支部、(社)建築士事務所協会(東北各県)、(社)建築士会(東北各県)、(社)東北建設業協会連合会のご後援を頂いていることを報告に加えさせて頂きたい。

第25回東北建築賞表彰式及び展示会報告

常議員 (社会・文化) 宮腰 直幸

第25回東北建築賞表彰式は「みちのくの風2005山形」の初日、6月11日に文翔館旧県会議事堂1階多目的ホールにておこなわれた。表彰式に先立ち、多目的ホールではパネルディスカッション「景観・エネルギーとまちづくり」

が行われ、多くの参加者が参加した。

東北建築賞を受賞した作品は作品賞6点、作品奨励賞2点の合計8点である。表彰式は沼野夏生審査委員長より選考経過報告と講評が行われ、受賞者各者に近江隆支部長から賞状、賞杯が贈られた。これに引き続き、本江正茂審査委員より受賞作について、審査の経過と受賞理由の説明が行われた。

また、受賞作品のパネル展示会は6月11日、12日の2日間、文翔館にて行われた。その後、東北建築作品展として東北6県の支所などで巡回展示された。本表彰式、講演会、パネル展示会は、ご後援の各位、委員長はじめ各選考委員、山形支所及び支部の関係者・スタッフ・そして、受賞者並びに作品応募者の方々の準備と協力により開催することができたものであり、各位にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

「作品選集 2006」東北支部審査報告

選考委員長 針生 承一

2005年6月23日に、東北支部にて最初の選考審査が山畑委員、阿部委員がやむを得ない事情の下での欠席の中で行われた。寄せられた15点の応募作品を対象に、現地審査作品の選考が行われた。選考方法として、応募者によって選出された資料を基に、各委員が8作品以内を選ぶ投票を行い、その後、討議によって対象作品を決定した。その結果、次の6作品が現地審査対象作品として選ばれた。

- No. 3 富岡町文化交流センター「学びの森」
- No. 4 東北工業大学環境情報工学科研究棟・教育棟
- No. 7 白石市宮鷹巣第2団地 シルバーハウジング
- No. 10 家業
- No. 11 北上市文化交流センター さくらホール
- No. 14 縄文の丘 三内まほろばパーク縄文時遊館

2005年8月22日・23日の2日間かけて現地審査が行われた。22日の審査については、東北地区の豪雨の関係で込山委員が、青森の作品(No. 14)の現地審査が参加不可能となった。このため、No. 14の審査は澤田委員、渡辺委員の2名にて行われた。なお、既に、別途、個人で見学済みであった針生委員長の意見も参考とした。北上の作品(No. 11)については、込山委員も含めて3名で審査が行われた。福島2点(No. 3、No. 10)については、阿部委員が都合により欠席であったため、針生委員長、山畑委員、陽田委員の3名により現地審査が行われた。23日の宮城県作品2点(No. 4、No. 7)については、全委員により現地審査が行われた。その後、現地審査に基づく議論の結果、No. 3とNo. 14については、現地審査担当委員から計画上のいくつかの疑問点が指摘された。それに対する目立った反論も特になかったため、推薦作品から除外することで委員全員の意見が一致した。

以上の結果、今年度は4作品を東北支部から推薦することとした。そのうち、書類審査の時点から高得点を得、更に現地審査でも評価の高かったNo. 7についてはA評価とし、

他をB評価とした。

A評価 白石市宮鷹巣第2団地 シルバーハウジング

B評価 東北工業大学環境情報工学科研究棟
家業

北上市文化交流センター さくらホール

後述：本部での選考委員会でNo. 4家業が投票の結果、選外になったのは残念でした。

2005年度日本建築学会設計競技

東北支部審査報告

宮城大学 千葉 政継

設計競技「風景の構想—建築をとおしての場所の発見」に対し、東北支部に15作品の応募があった。審査は、7月15日13:30から東北支部会議室において、佐藤忠幸、小野田泰明、毛谷村英治、千葉政継の4名で行い、最終的に以下の3点を支部推薦作品とした。

DEFINITION 近藤充(東北工業大学)は、闇の中に人工的な光の帯が見えることでぼんやりと稜線が浮かび上がり、何も無い暗澹とした広がりがある一つの建築の出現により奥行のある風景として見えてくるという作品。日中のことは考えてはいないが、その潔さを評価した。CONNECTER 鈴木琢磨(東北工業大学)は、高所からは「塊」、道からは「壁画」として見える街の二つの顔を、日常の中で関連付けて体感できるペントハウス群の提案。書き込みが足りないが、存在感の無い連続するペントハウスがビル群に緩やかな秩序と生活の痕跡を与え、新たな風景が現れるように思える点を評価した。VISIBLE 佐々木信雄(東北工業大学)は、仙台駅前のペDESTリアンデッキを空気中の有害物質のセンサーで変化する膜でくるんでしまおうというもの。膜を構造物に纏わせる方法はおざなりだが、着眼点や「可視化」のためにデザインされたパターンの面白さが、支部応募作の中で出色であった点を評価した。

2005年度支部研究報告会

常議員(学術・教育) 野内 英治

第68回(2005年度)東北支部研究報告会は、「みちのくの風 2005 山形」と題して、2005年6月11日(土)、12日(日)の二日間にわたり、文翔館(山形市)を会場に開催された。今回の論文総数は145題(計画系87題、構造系58題)であり、内訳は、環境38題、計画49題、材料施工22題、構造36題であった。ちなみに、昨年度の論文総数は137題であり、今回応募総数が増加したことになる。一題あたりの発表時間は、発表7分、質疑応答3分の計10分であり、発表方式は例年通りである。また、これら研究論文は「日本建築学会東北支部研究報告集第68号」(計画系、構造系2分冊)として発刊されている。なお、今回研究報告集の

表紙がリニューアルされた。気になる方は従来のものと比べていただきたい。

今回特筆すべき事柄として、招待講演を研究報告会の中で行った。これは支部の内外にこだわらず各部門の一線の研究者を招待し研究発表して頂くという趣旨もので、初の試みである。計画・環境部門では、「環境情報デザインの試み」と題し、宮城大学の本江正茂先生に、また、構造・材料部門では、「計測震度と建物被害の対応性」と題し、筑波大学の境有紀先生にそれぞれ発表して頂いた。

期間中盛況のうちに無事終了することができ、関係各位には深く感謝申し上げます。**2005 年度日本建**

築学会東北支部総会議事録

記録担当：出村 克宣

日 時：2005 年 5 月 21 日（土） 午後 3 時 30 分より

場 所：せんだいメディアテーク 7F

出席者：近江隆支部長以下 28 名

資 料：

資料 No. 1：日本建築学会東北支部年報第 25 号

資料 No. 2：2004 年度日本建築学会東北支部財産目録

2004 年度日本建築学会東北支部収支決算書

会計監査報告書

2005 年度日本建築学会東北支部収支予算書(案)

飯藤将之常議員の開会宣言の後、同常議員の司会により、以下の要領で総会が行われた。

1. 2004 日本建築学会設計競技／支部入選者表彰

2004 日本建築学会設計競技において支部入選となった 3 作品について、八津憲司氏による講評の後、支部長より賞状とメダルが授与された。

2. 出席者数および委任状の確認

出席者 28 名、委任状 25 通、合計 53 名の確認があり、東北支部会員 1245 名の 1/30 (41 名) 以上に当たるため、本総会が成立することが確認された。

3. 支部長挨拶

近江隆支部長による挨拶があった。

4. 議事録署名員の選出

出席者の中から議事録署名員として、伊藤憲雄氏および山田大彦氏が選出された。

5. 議 事

東北支部規程により、近江隆支部長が議長を務め、以下の事項について審議された。

(1) 2004 年度事業報告

前田匡樹常議員より、資料 No. 1 の支部年報 19 及び 20 ページの「2004 年度事業報告」にもとづき、2004 年度事業が

報告され、承認された。

(2) 2004 年度収支決算報告

高砂秀敏常議員より、資料 No. 2 の「2004 年度日本建築学会東北支部財産目録」及び「2004 年度日本建築学会東北支部収支決算書」にもとづき、2004 年度収支決算報告が成された。

(3) 会計監査報告

相沢清志支部監事より、資料 No. 2 の会計監査報告書の通り、2004 年度の会計内容については疑義のない旨の会計監査結果が報告された。

収支決算報告及び会計監査報告については、特別な問題指摘もなく、これらの報告が承認された。

(4) 2005 年度事業計画 (案) について

舟木尚己常議員より、資料 No. 1 の支部年報 21 及び 22 ページの「2005 年度事業計画 (案)」にもとづき、2005 年度事業計画が説明され、承認された。

(5) 2005 年度日本建築学会東北支部収支予算書 (案) について

八巻正信常議員より、資料 No. 2 の「2005 年度日本建築学会東北支部収支予算書 (案)」が説明された。なお、収支予算書 (案) の支出の部の事業費について、事業計画との関連が分かりにくいとの指摘があり、その内容について追加説明し、承認を得た。

以上で、司会者が閉会を宣言し、2005 年度日本建築学会東北支部総会を終了した。

以 上

研究部会活動報告

歴史・意匠部会

部会長 安原 盛彦

保存という問題

今年度（平成 17 年度）の建築学会東北支部歴史意匠部会で起こったことで例年と違うことといえば、旧農林中央金庫仙台支店の保存を学会から呼びかけられないかという申し入れが学会員からあり、部会にはかりそれを進めた事があげられる。

保存の問題は今年度の建築歴史・意匠本委員会でもいくつか要望書を出すことが決められた。東京の歌舞伎座（大正 13 年竣工建物- 設計者・岡田信一郎、現建物- 設計者・吉田五十八）、三井上高井戸運動場クラブハウス（設計者・久米権九郎）、東京中央郵便局庁舎・大阪中央郵便局庁舎（設計者・吉田鉄郎）などである。

今後も保存は古建築、近代建築にかかわらず生じてくる問題である。理由は個々の建物毎、様々である。機能が合わなくなったこと、床面積の問題、耐震、耐火など現行の法的基準に合わないことなど数え上げればきりが無い。

気づくことはこうした理由のことばかりではない。視点の問題がある。地震に耐えられるので残すとか、「良い建物」だから残すとか、「文化的に価値のある建物」だから残すという見方で片づけてしまうと古い建物は残らなくなる。

都市、町、村から古い建物が消えてゆき、新しいものしか残らなくなることを危惧する。まちの景観が全く変わってしまうのである。別の視点から建物の保存が考えられなければならない時がもうずっと以前からきていたのだ。あえて誤解を恐れず記すと、形を残す、古いから残す、解らないから残す、といった視点が必要なのである。時代を超えて様々な時期に建てられた建物が混在してまちが成り立ってゆく必要がある。

建築計画部会

部会長 小野田泰明

この一年もさまざまなことがあった。世間をゆるがせた耐震力偽装問題は、建築構造設計や法制度の問題に留まらず、分譲型集合住宅（マンション）を都市居住の場としてどのように位置づけていくのかという、建築計画的にも大きな課題を突きつけている。

その一方で、景気は少し上向きつつあるとはいえ、厳しい財政状況、合併で数が減る自治体、行政サービスにおける脱施設化、そして人口減少と我々を取り巻く環境は依然厳しい。こうした状況を背景に、既に公共建築は十分であり、そのための科学は必要ではないとする誤解も根強い。

建築学会計画委員会では、新しい社会が投げかける問題点に真摯に答えるため、2005 年 9 月の大会では「建築計画

の知見と手法の蓄積は 21 世紀の都市に何を可能とするか」と題してシンポジウムを開催した（2005 年 9 月 2 日）。小野田もパネリストの一人として、二極化が進行する現在の日本では、公共圏のプラットフォームとしての公共施設の役割はむしろ増しており、そのための科学が不可欠であることを述べさせて頂いた。また、年度末には、建築計画委員会・連続講話のトリとして、建築計画と実践の可能性とその課題について講演する機会も得た（2006 年 2 月 27 日）。なんとなく、東北の地での様々な建築計画実践に注目が集まっているようにも思われる。

そういうことであるので、建築計画部会としては、活発に活動しなければならぬのであるが、今年度は、前年度の研究のまとめをする以外は、まとまった活動をちゃんと出来なかった。部会長を仰せつかりながら、様々なことに忙殺され、機会を十分に提供できなかったことをここにお詫びしたい。

新年度は、これを深く反省し、よりフレッシュな次の体制に上手く引き継げるよう、企画活動を少しでも実践していきたい。皆様のご支援とご協力をお願いする次第である。

地方計画部会

部会長 増田 聡

2003 年 5 月・7 月、2005 年 8 月に発生した地震災害以降、東北支部地震災害調査 WG による調査が進められました。残念ながら、部会全体としての展開ではなく部会員の個人的参加が中心ですが、将来の宮城県沖地震に対する「計画領域」からの対策提案も重要と思われれます。

2003 年 12 月に発足した「宮城県沖地震対策研究協議会」の「地域づくり部会」では、文部科学省の研究費も得て、防災力の高度化・インセンティブ防災マップの作成等を進めております。地方計画部会員の皆様で、防災まちづくり・マップづくりワークショップ等に御協力いただける方は、増田までご連絡下さい。また、昨年「全国防災まちづくりフォーラム in 仙台」の後、「防災フォーラム」というメーリングリストを立ち上げていますので、参加希望の方は、併せてご一報下さい。

次に、前期からの引き継ぎである「東北のまちづくり事例集」の作成に関して、昨年 12 月には、都市計画本委員会主催の情報交流会「時代をリードしたまちづくりのその後」において、仙台市定禅寺通地区の事例の報告を行いました。来年度に向けて、情報収集体制の再構築を進めたいと考えています。

・地方計画部会 増田聡 masuda@econ.tohoku.ac.jp

・宮城県沖地震対策研究協議会

<http://www.disaster.archi.tohoku.ac.jp/kyogikai/>

構造部会

部会長 小野瀬 順一

2005年8月16日にM=7.2の宮城県沖地震により、スパン長30mのスポパーク松森における天井が落下、多数の負傷者が発生した。調査にあたった東北大、東北工大の研究者の一致した意見は、大スパン構造物では、地動の上下成分を考えなくても、曲げたわみ振動に伴う上下変位のため、水平地動加速度の5-7倍もの大きな上下加速度が発生したことによるというものであった。こうした現象はこれまでほとんど認知されていなかったことであり、また全国ニュースとなったという話題性もあることから、研究委員会内部にだけ留めておくことは不適當で広く建築関係者に周知しておくことが必要と考え、宮城県建築設計事務所協会、建築士会仙台支部、JSCA 東北支部、仙台建築構造設計事務所協会の方々の後援のもとに、いわば公開の拡大構造研究委員会として2005年10月14日(金)仙台市斉藤報恩会館において「大スパン構造物の動的性状を考える—スポパーク松森を例として—」を開催した。山田大彦(東北大)は、大スパンアーチにおける設計用地震力についての研究を通じて、水平地動に伴う上下地震力の存在が捉えられており、すでに基準化されていることを紹介、小野瀬順一(東北工大)は、山形ラーメン形式の鉄骨造体育館の応答解析例を示し、スパン1/4の点で大きな上下加速度が発生すること、阿部良洋(東北工大)はスポパーク松森の微動測定の結果を紹介、屋根上に大きな上下振動が存在し、その周期は水平方向のそれに一致することから、曲げたわみ振動に伴う上下動と考えざるを得ないことを、源栄正人(東北大)は地震後の余震観測の結果と解析を行い、8月16日の地震においてスポパーク松森における地表面における水平地動加速度は350gal程度に達し、これによる屋根面の上下加速度はその5-7倍の1.5Gから2Gに至ったのではないかと推定、最後に鈴谷二郎(東北工大)はスポパーク松森の固有振動解析のアニメーションを紹介、屋根面が波打つように上下することを示した。参加者は110名を越え、盛会のうちに終了した。次年度も公開構造研究委員会という形式での開催を考慮している。

環境工学部会

部会長 持田 灯

平成17年度は、以下の催しを開催した。

- 1) 第47回東北環境設備研究会「シックハウス対策の最前線」(6月17日)
- 2) シンポジウム「東北地方を中心とした住宅における省エネルギー技術とその効果の可能性」(7月22日)
- 3) 講演会「サステナブル建築の推進 - CASBEE 開発の背景と最新動向 -」(8月6日)
- 4) 講演会「中国清華大学における建築・都市環境と建物

- エネルギー消費に関する最近の研究」(9月30日)
- 5) シンポジウム「快適なトイレ空間の創生—排泄の場所から安らぎの場所へ—」(10月14日)
- 6) 盛岡駅西口複合見学会(10月27日)
- 7) 第48回東北環境設備研究会「木質バイオマスエネルギーの利用動向とその導入」(11月11日)
- 8) 講演会「サステナブルデザインの先進 - 暖房エネルギーゼロの暮らし in スウェーデン」(11月18日)
- 9) 講演会「ヨーロッパにおける換気システムの最新動向」(11月29日)
- 10) 第49回東北環境設備研究会「高齢者の温熱環境と健康」(2月3日)
- 11) 宮城球場改修工事(フルキャストスタジアム改修工事フェイズ2)見学会(3月8日)

2回の見学会も含めると11回の催しがあり、本年度もなかなか忙ただしかった。

7)の「木質バイオマス利用」と10)の「高齢者の温熱環境と健康」の講演会は、昨年度より継続的に行ってきた議論の結果実現したものである。7)はソーラや風力とは一味違う東北らしい自然エネルギーの利用技術という観点で取り上げたものであり、今後は雪の冷熱等のテーマについても講演会を企画して行きたいと考えている。また、過疎化や高齢化に関わる環境工学上の問題についても今後継続的に取り上げて行きたいと考えているが、10)はその1st stepと位置付けられる。3)は本会会長でありCASBEEの開発グループの責任者でもある村上周三先生(慶応大学)の講演会、8)はスウェーデンの建築家ハンス・エーク氏の講演会であるが、「サステナブル」がキーワードとなっているこれらの講演会はともに大盛況であった。

材料部会

部会長 金子 佳生

平成17年度の研究課題として、「サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究」をテーマに掲げ活動してきた。このテーマは、大学院生に対する教育ツールとして使用することを前提にし、サステナビリティの解釈や定義など根本の部分を含めて、学生にわかりやすく説明する資料としてまとめようとするものである。今年度の具体的な課題は、関連論文などのリストアップ及びキーワードの収集を行って、建築材料学教育のあり方を提案することであり、下記のとおり活動した。

1. 研究会(5月17日、日本建築学会東北支部会議室)

8名が出席し、今年度の取り組みについて討議した。決定事項は以下である。①大学院生に対する教育ツールとして使用するイメージでまとめる。②サステナビリティの解釈や定義など根本の部分を含めて、学生にわかりやすくまとめる。③部会で作成しているテキストとの関連を持たせることを検討する。

2. 研究会(9月12日、日本建築学会東北支部会議室)

8名が出席し、研究課題の進捗状況の確認と研究の方向性について討議した。決定事項は以下である。①今回のテーマは大学院生に対する教育ツールなので、部会で作成しているテキストとの関連付けはあえて行わない。②作業の分担は次回研究会で決定する。

3. 研究会（11月30日、日本建築学会東北支部会議室）

10名が出席し、研究課題の進捗状況の確認と研究の方向性について討議した。決定事項は以下である。①「2005年度支部研究報告書（案）」を基本構成として、各項目・キーワードについて意見を出し合う。②本研究の方向性を明確にする。③参考となる資料を次回研究会に持ち寄り、それらの内容を加味した上で報告書の内容を決定する。

4. 研究会（2月24日、日本建築学会東北支部会議室）

8名が出席し、研究報告書のまとめ方について討議した。決定事項は以下である。①今後の活動に関するキーワードを明確に記述する。②巻末のデータベースを充実させる。

以上、4回の研究会を通じて、「2005年度支部助成研究報告書」を完成させた。

施工部会

部会長 伊藤 憲雄

本年度、施工部会は、6回（研究委員会：5回、現場見学会：1回）部会を開催致しました。それらのうち、現場見学会では東北薬科大学新築工事を見学、また研究委員会の中では、「国宝大崎八幡本殿・石の間・拝殿に関する平成の大修理」の工事記録の映像を観賞致しております。

本年度の主たる活動の内容は、昨年度の活動で話し合われた内容を基に、「リニューアル工事がかつ廃棄物の少ない工法」を探る、について行いました。具体的には、建物の概要（竣工年、構造種別、規模、場所）を踏まえて、改修に至った経緯、改修の方法、評価などの調査票の作成を試み、最初に屋上・屋根の部位について事例収集等の検討から行いました。

本年度の作業を行った結果、次の点が今後検討を要する課題であることが明らかになりました。

（1）事例集の収集過程で調査票の内容に関する情報開示に関わる問題点、資料価値を得るための定量的評価、および収集した資料の比較検討が行える基準となる工法の提示が必要であること。

（2）施工事例の収集は、使用商品名および価格要素の開示等に検討を要すること。

（3）（1）および（2）から、環境を考慮した改修方法の流れ図を作成することが、教材としての価値を生み有効に活用可能になるとの合意が得られました。

現在、上述の結果を基に、屋上、屋根、外壁を対象とした改修工法を選定するための流れ図について、資料収集および流れ図の作成・提案するための作業を継続中であることを報告致します。

建築デザイン教育部会

部会長 千葉 政継

平成18年3月6日（月）13:30～16:45迄、日本建築学会東北支部において、伊藤邦明東北大学名誉教授と南一誠芝浦工業大学教授の二人の講師による、JABEEに関する公開シンポジウムを開催した。参加者には予め両講師から提供された資料をコピーして配布した。

初めに南一誠教授が「JABEEの認定基準と審査方法について」というテーマでJABEE審査のポイントについて話した。2005年時点で建築学及び建築学関連分野でのJABEE認定校は8校あり、2005年度も幾つかの教育機関が受審するなど、申請を行う高等教育機関は増えているとのことであった。南氏は、JABEE審査の目的に始まり、プログラム認定の多様なあり方、審査を受ける日程、認定の基準、審査の流れなどを具体的に解説した。特に学習・教育目標の設定の表が上手く出来るかどうか審査を受ける上で重要との話や、既に認定を受けた大学が公開している学習・教育目標の設定は参考になるなどの話は有益である。また、シラバスはWeb上で開示するだけでなく紙に書かれたものも必要など、具体的かつ詳細な話を伺えた。会場からは、非認定となった大学より下位ランクの大学の認定は無理か、などの率直な質問も出たが、教育目標の水準を高く設定しすぎると非認定になる場合もあり、一概に言えないとの回答があった。

続いて伊藤邦明東北大学名誉教授が「大学院 JABEEについて」というテーマで、大学院 JABEE認定が推進されている経緯や内容について、最新の情報を交えて話した。大学院 JABEE認定の推進にはUIA認定の件があり建築が先行、機械、化学、電気・電子情報分野も参加し、現在は他分野にも広がりつつあるが、具体的に認定校が出るまでにはもう少し時間が掛かるなどの話があった。

参加者は講師を含めて7名であったが、講師に対する質疑や参加した各大学の状況報告が率直に行われただけでなく、東北大学在学中の中国合肥工業大学助教授の参加で中国の状況を聞くことも出来、有意義な会となった。

東北支部災害調査連絡会

委員長 源栄 正人

2005年度の災害調査連絡会の組織は、田中礼治前委員長から源栄正人委員長に引き継がれ、活動を行なった。

2005年8月16日（火）夏期休暇中に宮城県沖地震（M7.2）が発生したので、東北支部災害調査連絡会としての対応を決めるために、2005年8月18日（木）に連絡会を開催した。参加者は東京からの参加者も含め21名であった。東北支部としての方針は、今回の地震は小規模国内地震災害として位置づけし、東北支部災害調査連絡会として地震災害調査WGは組織しないで、1）地震・地震動、2）建物被害、3）設備関係被害、4）生活関連被害、5）人的被害につ

支所だより

青森支所

支所長 千葉 和郎

2005年度の青森支所の活動状況について報告します。

先ず、6月15日（水）に幹事会を開催し、今年度の事業計画を検討し「全員協議会」、「東北建築賞受賞作品展示会」及び「親と子の建築講座」の開催を決定しました。

7月22日（金）には恒例の全員協議会を開催し、幹事会で決定した事業計画等を報告し、会員に協力をお願いするとともに親睦を深めたところであります。

また、8月20日（土）には“魅力ある街づくり”を考えよう（茂森町編）をテーマに、県立弘前工業高等学校との共催で「親と子の建築講座」を開催しました。参加者全員で、弘前市の門前町として栄えた“茂森”の街の現状を観察・把握し、それから建築の持つ魅力や歴史的背景を勘察しながら、「街づくり」を考えた“親子の楽しい講座”となりました。

この講座は、文部科学省の研究費補助金の採択を受け、参加者の皆さんが住み良い地域環境づくりに寄与する人材となることを期待し、開催したものです。

さて、今年度の「親と子の建築講座」を終えて間もなくして、本県の支所活動と「親と子の建築講座」を長年精力的に企画・実施して来られた古跡昭彦氏が他界されました。49歳という若さの突然の訃報に、幹事一同、大きな驚きと、また貴重な人材の損失に痛恨の極みを禁じ得ないでいます。この場をお借りして、故人のご冥福を心からお祈りいたします。合掌・・・・・・・・。

最後に、2006年度も当支所への御支援・御協力を御願いし、報告とします。

秋田支所

支所長 小野田 吉純

平成17年度、秋田支所では、今年で34回目の開催となる、「秋田県学生・生徒による建築設計作品コンクール」と今年度新たに取組んだ事業で「建物と風景フォトコンクール」を中心に活動してまいりました。

「建築設計作品コンクール」に応募された作品は、高校の部が15点、大学の部が17点、専門学校の部が17点で、地域の自立・活性化、少子・高齢化への提案など、社会性が強く反映された作品が多かったのが特徴でした。

また、「フォトコンクール」は出展数が30点で、風景にとけ込んだ建物をテーマに、豊かな環境との共生、生き生きとした暮らしなどを描きながらシャッターを切った作品は、いずれも感銘と共感を与えてくれました。

優秀な作品に対しては、知事賞や建築学会支部長賞などを授与し、表彰された作品は平成18年2月25日と26日に

いて調査活動を行ない、出来た報告からウェブに掲載することにした。特に、この地震での地震観測記録についての取りまとめを行なうことを決定した。

2006年3月1日（水）に災害調査連絡会を開催し、東北地域で発生する災害に対する調査体制と規約の見直しについて議論すると共に、文部科学省の防災研究成果普及事業で開発している地域防災情報共有プラットフォームの利活用についての討議を行なった。2006年10月4日、5日に予定されている「震災対策技術展／自然災害対策技術展」宮城への参画について、日本建築学会災害委員会と連携した企画を考えることにした。

2006年3月23日（木）に災害調査連絡会を開催し、平成18年度の体制を中心とした討議を行ない、連絡調整幹事会の下に、初動調査WG（主査：前田匡樹）、共有プラットフォームWG（主査：源栄正人）および、連絡情報拠点WG（主査：佐藤健）を設置し通常時の活動を行うとともに、災害発生時には、従来のように災害調査WG（主査：災害調査連絡会委員長）を設置するような体制にすることとした。これにともなう内規の見直しについて検討した。

秋田市の「秋田拠点センター AL☆VE」において作品展を行い、広く県民の皆様に紹介致しました。

平成 18 年 2 月 22 日に建築設計作品コンクールの表彰式を行い、終了後には当支所と秋田県及び県内建築関係団体との共催事業として、講師に芝浦工業大学教授の三井所清典氏をお招きし、「地域に根ざした家づくり・町並みづくり」と題し講演会を開催しました。講演会は、一般の方も含む約 150 名の参加者があり好評を博す事が出来ました。

今後とも関係団体や学校・研究所との連携を深めながら、地域に根ざした支所活動を進めてまいります。

岩手支所

支所長 澤口 政登志

今年度の活動としては、昨年度に引き続き、住まいづくりに関わる幅広く充実した情報提供のイベントとして、岩手県や盛岡市などが主催し開催している「いわて住宅祭」に併せて「東北建築賞受賞作品展示会」を開催しました。

いわて住宅祭は今年度で 22 回目の開催ですが、同じく岩手県や盛岡市などが主催し開催しているいわてクリーンエネルギーフェアと 3 回目の合同開催であり、「住まいとエネルギーのフェスタ 2005」として 9 月 2 日（金）から 3 日（日）の 3 日間開催され、1 万 6 千人を超える来場者がありました。これからも、この機会を利用して、たくさんの方々に見ていただき、建築学会の活動をより多くの方々に周知したいと考えております。

また、毎年開催されている盛岡市主催の「第 29 回盛岡市都市景観シンポジウム」が、11 月 18 日（金）に開催され、当支所でも後援をしました。今回は、今年 1 月 10 日に盛岡市と合併した玉山村出身の石川啄木をテーマとして、石川啄木記念館の学芸員である山本玲子さんの「啄木の風景」と題した基調講演と、「ひろがるもりおかの魅力～啄木と玉山と盛岡と～」と題して、熱心なパネルディスカッションが行われました。

今後とも、建築関係のイベントなどに主催や後援するなど、機会をとらえて学会と地域社会との交流を図る諸事業を開催していきたいと考えております。

山形支所

支所長 有路 廣志

2005 年度の山形支所の活動について報告いたします。今年度は、2 つの「親子の建築講座」及び支部主催の「みちのくの風 2005 山形」を中心に活動してまいりました。

10 月 2 日には、2005 親子の建築講座の第 1 弾として「やまがたレトロ館めぐり」を開催し、親子 10 組を含め、22 名の方々に参加していただきました。子供たちに建築の楽しさを感じてもらうことを目的として 4 回目の開催となった今回も、子供達にとっては建築に興味を持ってもらうこ

と、大人の参加者にとっては歴史的建築物の保存・活用に対する意識を持ってもらうことの良いきっかけ作りとなったと思っております。

10 月 23 日には、2005 親子の建築講座の第 2 弾として「コンピューターによる住宅モデル作成」を開催し、親子 6 組を含め、16 名の方々に参加していただきました。参加者全員に、建築 3 次元 CAD を使用した空間シミュレーションを行っていただきました。親子それぞれが思い思いの小住宅を完成させ、出来上がった鳥瞰図とウォークスルーアニメーションを見たときの感想からは、本講座の「建築をデザインする楽しさを体験する」という目的を十二分に達成していただけたと思っております。

また 6 月 10、11 日には「みちのくの風 2005 山形」が山形市の文翔館(旧県庁舎)を会場に開催されました。支部との連携の下、パネルディスカッション、各研究報告会、パネル展示会等成功を収めることができたと考えております。東北各地から皆様にお越しいただき、文翔館そして山形をご紹介するよい機会となりましたことを深く感謝いたしております。これらイベント等の開催には、関係団体、学校等多くの方々の協力をいただきました。今後もこのようなイベントをはじめとして、関係団体のご協力を仰ぎながら、活発な活動を推進していきたいと思っております。

福島支所

支所長 渡辺 光司

平成 17 年度、福島支所では、建築文化週間事業としての「建築を知る環境講座」及び「第 25 回東北建築賞作品展示会」を中心に活動してまいりました。

「建築を知る環境講座」は、昨年 10 月郡山市で開催いたしました。100 名の参加を得て、盛況のうちに終えることができました。

本講座では、原広司氏に「ディスクリート・シティの理論と実践」について講演いただき、佐瀬守昭氏に「街なか居住と中心市街地活性化」についてプレゼンテーションをいただいた訳ですが、建築とそれを取り巻く都市との関係や今後の課題について、多くの参加者に十分に伝わったものと確信しております。今後、建築に携わる方々がまちづくりにどのように関わっていくべきなのかを考えるうえでひとつの手がかりになってくれることを切に願います。

また、「第 25 回東北建築賞受賞作品展示会」も郡山市での開催となりましたが、今回は「日本大学工学部建築学科卒業設計展」との同時開催といたしました。学生の夢のある作品から、第一線で活躍する建築家の作品まで多くの建築作品が並び、建築関係者はもとより、一般市民にとっても、見応えのある展示会になったのではないかと感じております。

このような地域の学校や関係団体との連携・協同については、今後ますます拡充させ、さらなる事業の充実に関心をもちたいと思っております。

常議員会から

常議員 大野 晋

常議員会は、支部長、14名の常議員（総務・企画4名、社会・文化3名、学術・教育3名、会計・会員2名、図書・情報2名）、支部長から任命された企画運営委員（2名）及び支部監事（2名）並びに支所長（青森支所・秋田支所・岩手支所・山形支所・福島支所）で構成されている。なお、常議員会の開催に当っては、総務会（支部長と総務・企画担当常議員）で議事内容などを検討している。また、9月に支部長、総務・企画担当常議員も出席して、支所長会議を実施している。

常議員会は、原則として毎月行われるが、議案が少ない場合には、ネットワーク会議としている。常議員会では、様々な議題が取り上げられ、支部活動が円滑に行われるよう努めている。また、学会本部の活動状況を踏まえた支部活動ができるよう、常議員会の冒頭で、理事会及び支部長会議の審議・報告内容が紹介される。本年度の常議員会で取り上げられた主な議事・報告のタイトルを要約して以下に示す。

【2005年4月ネットワーク会議】次期常議員の選挙開票報告と役割分担、支部年報の編集状況、2004年度決算報告、2005年度科学研究費補助金の採択結果報告、支部総会及び関連イベント、みちのくの風2005山形の進捗状況

【5月】総会及び懇親会の準備確認、支部年報編集状況、4月会計報告、支部役員繰り上げ当選、第25回東北建築賞選考委員の常議員枠、支部事務職員の処遇、みちのくの風2005山形の進捗状況、東北建築賞選考委員

【6月】2005年度支部総会報告、みちのくの風2005山形の開催報告、「作品選集2006」応募結果の報告、5月会計報告、年間行事予定、理事会への支部長代行者、東北建築賞作品集の経費削減、他の学協会支部との連携

【7月ネットワーク会議】日本建築学会設計競技審査報告、講演会「サステナブル建築の推進」、学会賞（論文）の推薦、「作品選集2005」選考部会会議、支所長会議の日程、東北建築賞作品集発行

【9月】東北建築作品発表会の準備状況、「作品選集2006」支部推薦報告、第7期代議員および支部役員の選挙日程、2005年度日本建築学会設計競技全国審査の報告、2005年度総会報告、6、7、8月会計報告、選挙管理委員会の設置、2006年度支部総会の日程、特色ある支部活動の企画提出、2006年度日本建築学会設計競技の課題、2006年度日本建築学会文化賞候補及び大賞業績候補の推薦、みちのくの風2006秋田、他の学協会支部との連携

【10月ネットワーク会議】功労者表彰の候補者推薦、日本建築学会120周年記念支部共通事業、みちのくの風2006秋田、2006年度支部総会と付随行事、2006年度日本建築学会設計競技支部審査委員選出、東北建築賞

【11月】代議員・常議員候補者届出状況、第16回東北支部

作品発表会、2006年度日本建築学会設計競技支部審査委員の報告、9、10月会計報告、功労者表彰の候補者推薦、支部研究報告会募集要項、次期作品選集選考委員の選定、日本建築学会120周年記念支部共通事業、みちのくの風2006秋田、2006年度支部総会

【2006年1月】「鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ制御設計・施工指針」講習会、11、12月会計報告、作品選集2007の委員、次期代議員・支部長・常議員候補者届出、2006年度日本建築学会東北支部研究報告会・論文募集要項、日本建築学会120周年記念支部共通事業、支部研究補助費の申請、支部年報第26号発刊計画、みちのくの風2006秋田、支部総会後のイベント・東北建築賞の表彰式、事務職員の退職及び採用

【2月ネットワーク会議】「鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ制御設計・施工指針」講習会報告、旧農林中央金庫仙台支店の保存についての要望書提出、支部研究補助費の申請、他の学協会支部との連携、みちのくの風2006秋田、まちづくり推進委員への委員推薦、東北建築賞研究奨励賞規定、総会の進捗状況、事務職員採用

【3月】第26回東北建築賞選考結果報告、全国大学・高専卒業設計展の日程、支部功労会員、1、2月会計報告、2006年度予算(案)、事務局の待遇、支部総会と付随行事、第27回東北建築賞の応募要項、みちのくの風2006秋田の進捗状況、2006年度「建築文化事業」開催

支部役員名簿

東北支部常議員・企画運営委員の構成と役割分担

役割	2005年度 (2005年6月～2007年5月)	2006年度 (2006年6月～2008年5月)
支部長	近江 隆 (東北大)	倉田 光春(日本大学)
総務企画	出村克宣 (日本大学) 船木尚己 (東北工大) 大野晋 (東北大) 山田寛次 (秋田県立大)	大野晋 (東北大) 山田寛次 (秋田県立大) 土方吉雄 (日本大学) 大沼 正昭 (東北工大)
社会文化	佐藤忠幸 (建築工房 DADA) 込山敦司 (秋田県立大) 宮腰直行 (八戸工大)	宮腰直行 (八戸工大) 氏家清一((株)氏家建築設計事務所) 長谷川兼一(秋田県立大)
学術教育	小野田泰明 (東北大) 槻橋 修 (東北工大) 野内英治 (日本大学)	槻橋 修 (東北工大) 野内英治 (日本大学) 西脇智哉 (山形大学)
会計会員	八巻正信 (JR 東日本) 横山直樹 (仙台市)	横山直樹 (仙台市) 小澤成昭 (JR 東日本)
図書情報	佐藤慎也 (山形大) 山畑信博 (芸工大)	山畑信博 (芸工大) 五十嵐太郎 (東北大)
企画運営	細田洋子 (仙台市) 山北孝治 (国道交通省)	
事務局	渡辺美香	渡辺美香

研究部会長

研究部会	部会長
構造	小野瀬順一 (東北工業大学教授)
材料	金子佳生 (東北大学助教授)
建築計画	小野田泰明 (東北大学助教授)
地方計画	増田 聡 (東北大学教授)
歴史意匠	安原盛彦 (秋田県立大学教授)
施工	最知正芳 (東北工業大学助教授)
環境工学	持田 灯 (東北大学助教授)
デザイン教育	千葉政継 (宮城大学教授)
災害調査連絡会	源栄正人 (東北大学教授)

東北支部会員数 (2006年4月1日現在)

名誉会員	2名	準会員	11名
終身会員	53名	賛助会員	8法人
正会員 (個人)	1,342名		
正会員 (法人)	51法人		

東北支部監事

2005年6月～2006年5月

渡辺隆一 (JR 東日本)
高砂秀敏 (仙台市)

2006年6月～2007年5月

高砂秀敏 (仙台市)
八巻正信 (JR 東日本)

東北支部選出代議員

任期	代議員
2005年4月 ～ 2007年3月	三浦金作 (日本大学教授) 細田洋子 (仙台都市総合研究機構企画調査部次長) 植松 康 (東北大学教授) 佐藤彰芳 (国土交通省東北地方整備局建設部住宅調整官)
2006年4月 ～ 2008年3月	若井正一 (日本大学教授) 小山 剛 (東日本旅客鉄道(株)仙台支社整備部工事課副課長) 山田大彦 (東北大学教授) 月舘敏栄 (八戸工業大学教授)

支所長

支所	支所長
青森支所	千葉和郎 (青森県総務部工事検査課建築工事検査監)
秋田支所	北田 透 (秋田県建設交通部参事兼建築住宅課長)
岩手支所	澤口政登志 (岩手県土木部建築住宅課長)
山形支所	井上憲太郎 (山形県土木部建築住宅課課長)
福島支所	武井 一 (福島県土木部建築領域建築指導グループ参事)

2005 年度事業報告

〈事務の部〉

総 会	1. 2004 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2005 年度事業計画・予算案	2005 年 5 月 21 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (10)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (4)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1) 作品選集選考委員会 (2)	() は回数
代議員半数改選	(留任) 菅野 實、倉田光春、後藤 工、渡辺正朋 (新任) 植松 康、佐藤彰芳、細田洋子、三浦金作	2004 年 4 月～2006 年 3 月 2005 年 4 月～2007 年 3 月
支部長改選	(留任) 近江 隆	2004 年 6 月～2006 年 5 月
常議員半数改選	(退任) 石井 敏、カキマダソンババブル、澤田紘次、高砂秀敏、 飯藤将之、前田匡樹、渡澤正典 (留任) 小野田泰明、佐藤慎也、佐藤忠幸、出村克宣、原田和幸、 船木尚己、八巻正信 (新任) 大野 晋、槻橋 修、野内英治、宮腰直幸、山田寛次 山畑信博、横山直樹	2003 年 6 月～2005 年 5 月 2004 年 6 月～2006 年 5 月 2005 年 6 月～2007 年 5 月
企画運営委員	細田洋子、山北孝治	2005 年 6 月～2006 年 5 月
支 部 監 事	渡辺隆一、高砂秀敏	2005 年 6 月～2006 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造 : 小野瀬順一 構造技術における新しい試み 材 料 : 金子佳生 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究 建築計画 : 小野田泰明 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画 : 増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠 : 安原盛彦 歴史的建築における空間論 環境工学 : 持田 灯 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工 : 伊藤憲雄 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育 : 千葉政継 建築設計教育の充実を JABEE の発足、UIA 認定の開始を目前に大学院教育をも含めたプログラムで考える 災害調査連絡会 : 源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
支部研究助成金による研究	サステナビリティ確保に向けての建築材料教育のあり方に関する調査研究 材料部会 (研究責任者 山田寛次)	2005 年 4 月～2006 年 3 月
支部研究報告会	2005 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 68 号計画系・構造系 刊行 発表題 145 題	2005 年 6 月 11 日～12 日 山形県文翔館
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 仙台市内と福島支所で開催予定 2) 第 16 回「東北建築作品発表会」の開催 (仙台市) 3) 第 26 回「東北建築賞」の選考 4) みちのくの風 2005 山形 ・支部研究報告会と招待講演会	2005 年 10 月 2005 年 10 月 1 日 せんだいメディアテーク 2005 年 6 月 11 日～12 日 山形県文翔館

	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッション「景観・エネルギーとまちづくり」 ・第25回東北建築賞授賞式 ・第25回東北建築賞受賞作品展示会 <p>1. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座</p> <p>① 仙台会場 ー原町まちたんけんー地域の歴史をいかしたまちづくりを考えよう</p> <p>② 青森会場「魅力ある街づくりを考えよう」</p> <p>③ 山形会場「コンピューターによる住宅モデル作成」</p> <p>2) 第25回東北建築賞作品展示会 仙台市、盛岡市、山形市、八戸市、秋田市、郡山市</p> <p>3) 建築文化週間</p> <p>① 山形会場「やまがたレトロ館めぐり」</p> <p>② 福島会場「建築を知る環境講座」</p>	<p>2005年7月27日</p> <p>2005年8月20日</p> <p>2005年10月23日</p> <p>2005年10月～2006年3月</p> <p>2005年10月2日</p> <p>2005年10月29日</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム(2)</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会(6)・研究会(2)・見学会(2)などを適宜開催</p>	<p>2005年4月～2006年3月</p> <p>()は開催数</p>
表彰	<p>1. 第25回東北建築賞作品賞 作品賞6点、作品奨励賞2点、</p> <p>2. 日本建築学会設計競技支部入選者表彰3名</p>	<p>2005年6月11日</p> <p>山形県文翔館</p> <p>2005年5月21日</p> <p>せんだいメディアテーク</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第25回東北建築賞作品展示会：八戸市 ・親と子の建築講座「魅力ある街づくりを考えよう」：弘前市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会 ・第34回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第25回東北建築賞作品展示会：秋田市 <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第25回東北建築賞作品展示会：盛岡市 ・第29回盛岡市都市景観シンポジウム <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第25回東北建築賞作品展示会：山形市 ・建築文化週間「やまがたレトロ館めぐり」：山形市 ・親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第25回東北建築賞作品展示会：郡山市 ・建築文化週間「建築を知る環境講座」：郡山市 	<p>2005年10月</p> <p>2005年8月20日</p> <p>2006年2月</p> <p>2005年12月</p> <p>2005年9月</p> <p>2005年11月</p> <p>2005年6月</p> <p>2005年10月2日</p> <p>2005年10月23日</p> <p>2006年2月</p> <p>2005年10月29日</p>
刊行活動	<p>支部年報第25号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第68号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集(第16号)発行</p>	<p>2005年5月21日</p> <p>2005年6月11日</p> <p>2005年10月1日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	鉄筋コンクリート造の収縮ひび割れ制御設計施工指針講習会	2006年2月
展示会	全国・大学高専卒業設計展示会 仙台市、八戸市、郡山市、山形市、本荘市	2005年6月～2006年1月
審査会	2005年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：風景の構想ー建築をとおしての場所の発見 応募総数15点、全国入選1点、支部入選2点 日本建築学会「作品選集2006」支部審査会 応募総数15点、本部推薦4点、作品選集掲載決定3点	2005年7月 2005年6月～9月

2006 年度事業計画（案）

〈事務の部〉

総 会	1. 2004 年度事業報告・決算報告・会計監査報告 2. 2005 年度事業計画・予算案	2006 年 5 月 13 日 せんだいメディアテーク
諸 会 合	総会 (1)、常議員会 (10)、支所長会議 (1)、東北建築賞作品賞選考委員会 (4)、東北建築賞研究奨励賞選考委員会 (1)、東北建築賞業績賞選考委員会 (1)、設計競技審査会 (1)、選挙管理委員会 (1) 作品選集選考委員会 (2)	() は回数
代 議 員 半 数 改 選	(留任) 植松 康、佐藤彰芳、細田洋子、三浦金作 (新任) 若井正一、小山 剛、山田大彦、月舘敏栄	2005 年 4 月～2007 年 3 月 2006 年 4 月～2008 年 3 月
支 部 長 改 選	(退任) 近江 隆 (新任) 倉田光春	2004 年 6 月～2006 年 5 月 2006 年 6 月～2008 年 5 月
常 議 員 半 数 改 選	(退任) 小野田泰明、佐藤慎也、佐藤忠幸、出村克宣、込山敦司、船木尚己、八巻正信 (留任) 大野 晋、槻橋 修、野内英治、宮腰直幸、山田寛次、山畑信博、横山直樹 (新任) 五十嵐太郎、大沼正昭、土方吉雄、西脇智哉、長谷川兼一、小沢成昭、氏家清一	2004 年 6 月～2006 年 5 月 2005 年 6 月～2007 年 5 月 2006 年 6 月～2008 年 5 月
企画運営委員	(退任) 細田洋子、山北孝治	2005 年 6 月～2006 年 5 月
支 部 監 事	高砂秀敏、八巻正信	2006 年 6 月～2007 年 5 月

〈支部事業〉

研究委員会	[部会名] [部会長] [テーマ名] 構 造：小野瀬順一 構造技術における新しい試み 材 料：金子佳生 サステナビリティ確保に向けての建築材料学教育のあり方に関する調査研究 建築計画：小野田泰明 21 世紀にむけた生活環境の創造 地方計画：増田 聡 ・東北のまちとまちづくり ・防災まちづくり ・環境問題と中心市街地の再編 歴史意匠：安原盛彦 災害を考慮した歴史的建造物のデータベースと活用方法の研究 環境工学：持田 灯 ・木質バイオマス利用 ・高齢化社会における環境工学の問題 ・都市のコンパクト化に伴う環境工学上の問題 ・東北の地域特性に根ざした都市環境計画 施 工：伊藤憲雄 建築分野における最新技術とその施工法について 建築デザイン教育：千葉政継 JABEE 関連についての調査とシンポジウムの開催 災害調査連絡会：源栄正人 東北地域における地震及び各種災害が発生した際の調査、広報に関わる連絡や調整および関連事業の企画立案と支援	
支部研究助成金による研究	東北地方の建築・都市の統合的な環境負荷削減のあり方に関する研究 環境部会 (研究代表者：内海康雄)	2006 年 4 月～2007 年 3 月
支 部 研 究 報 告 会	2006 年度東北支部研究報告会、研究報告集第 69 号計画系・構造系 刊行 発表題 124 題	2005 年 6 月 17 日・18 日 秋田県生涯学習センタージョイナス
支 部 主 催 支 部 共 催 イ ベ ン ト	1. 支部主催 1) 建築文化週間事業 福島支所、山形支所にて、2～3 件ほど実施予定 2) 第 27 回「東北建築賞」の選考 3) みちのくの風 2006 秋田 ・支部研究報告会と招待講演会	2006 年 6 月 17 日・18 日 秋田県生涯学習センタージョイナス

	<ul style="list-style-type: none"> ・パネルディスカッションテーマ「地球環境時代のまちづくり - Winter City からの発信- ・第26回東北建築賞授賞式 ・第26回東北建築賞受賞作品展示会 <p>2. 支部共催</p> <p>1) 親と子の建築講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 仙台会場 =南材木町・河原町まちたんけん ② 山形会場 「「コンピューターによる住宅モデル作成」 ③ 山形会場 「やまがたレトロ館めぐり」 <p>2) 第26回東北建築賞作品展示会 仙台・盛岡・山形・八戸・秋田・郡山</p>	<p>2006年7月</p> <p>2006年10月</p> <p>2006年10月</p> <p>2006年6月～2007年3月</p>
研究部会主催	<p>1. シンポジウム</p> <p>2. その他、部会ごとに講習会・研究会・見学会などを適宜開催</p>	
表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・2005年設計競技支部入選作品表彰 ・日本建築学会東北支部功労者表彰 ・第25回東北建築賞作品賞 作品賞2点、作品奨励賞1点 	<p>2006年5月13日 三井アーバンホテル仙台</p> <p>2006年6月17日 秋田県生涯学習センタージョイナス</p>
支所活動	<p>青森支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員協議会 ・第26回東北建築賞作品展：八戸市 <p>秋田支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員会 ・第36回建築学科生徒による建築設計作品コンクール：秋田市 ・第26回東北建築賞作品展：秋田市 <p>岩手支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第26回東北建築賞作品展：盛岡市 ・第33回県内工業高校生生徒設計製図作品コンクール後援 ・第36回県下工業高校設計作品コンクール <p>山形支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親と子の建築講座「やまがたレトロ館めぐり」 ・親と子の建築講座「コンピューターによる住宅モデル作成」 ・第26回東北建築賞作品展：山形市 <p>福島支所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第26回東北建築賞作品展：郡山市 ・作品展記念講演会：郡山市 <p>仙台会場</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南材木町・河原町まちたんけん：仙台市 	<p>2007年2月</p> <p>2007年2月</p> <p>2007年2月</p> <p>2006年10月</p> <p>2006年10月</p> <p>2007年2月</p> <p>2006年7月</p>
刊行活動	<p>支部年報第26号発刊</p> <p>東北支部研究報告集第69号計画系・構造系発刊</p> <p>東北建築作品集（第17号）発行</p>	<p>2006年5月13日</p> <p>2006年6月17日</p> <p>2006年10月1日</p>

〈支部共通事業〉

講習会	鉄筋コンクリート造のひび割れ（設計・施工）指針改定講習会	2007年2月
展示会	<p>第26回東北建築賞作品展示会 仙台・盛岡・山形・八戸・秋田・郡山</p> <p>全国・大学高専卒業設計展示会 仙台・八戸・郡山・山形・秋田</p>	<p>2006年6月～2007年3月</p> <p>2006年6月～2006年12月</p>
審査会	<p>2006年度支部共通 日本建築学会設計競技 テーマ：近代産業遺産を生かしたブラウンフィールドの再生</p> <p>日本建築学会「作品選集2006」</p> <p>建築学会創立120周年記念支部共通事業提案競技・絵画コンクール・写真コンクール 課題「美しくまちをつくる・むらをつくる」</p>	<p>2006年7月</p> <p>2006年6月～9月</p>
見学会	構造部会・施工部会・環境工学部会・歴史意匠部会の各部会で開催予定	

法人・賛助会員

阿部建設(株)
伊藤組土建(株)
大槻電設工業(株)
株大林組
株関・空間設計
株奥村組
鹿島建設(株)
株熊谷組
五洋建設(株)
清水建設(株)
仙建工業(株)
大成建設(株)
株竹中工務店
鉄建建設(株)
戸田建設(株)
株ユアテック
西松建設(株)
りんかい日産建設(株)
株間組
株フジタ
堀江工業(株)
前田建設工業(株)
升川建設(株)
株ピーエス三菱東北支店
株三菱地所設計
株山下設計
株ウンノハウス
株梓設計
株伊藤喜三郎建築研究所
東日本興業(株)
佐藤工業(株)
北洲

東北ポール(株)
株昂設計
株みちのく設計
東北ドック鉄工(株)
千田総兵衛建築事務所
株内海建築事務所
株都市構造研究センター
株東北設計計画研究所
株本間利雄設計事務所+地域環境計画研究室
株エムアイティ建築研究所
旭化成建材(株)
東日本旅客鉄道(株)東北工事事務所
東北電力(株)
株NTT ファシリティーズ
(社)日本電設工業協会
東北空気調和衛生工事業協会
東北文化学園専門学校
日刊建設産業新聞社
株田村設計室
株佐藤総合計画
東北文化学園大学
株若松六本木設計
エヌ・ティ・ティ都市開発(株)
元旦ビューティー工業(株)
株清水公夫研究所
株久米設計
三友電設(株)

日本建築学会

東北支部年報

2006年5月13日発行 第26号

編集責任者 山畑信博
